



天使の悩み

3

～不自由してみたい～

ver 1.2

じーこ澤田



… *天使は悩んでいました。*

「人間の世界って、こういう仕組みになっているのかぁ…」

「何だ、なんだ。弟よ。
分厚い本を読んでいるんだなあ。」

「あっ、兄ちゃん。
面白い本を天使図書館で見つけて、借りてきたんだ。
人間の世界がどんな仕組みになっているのか、詳しく書いてあるんだよ。」

「それは、興味深いなあ。
どんなふう書いてある？」

「え～とね。
まずは、なんて人間の世界を創ったのか、書いてあるよ。」

「ほほ～、で 何でなんだって？」

「天使の世界で、味わえない体験をするために、人間の世界を創ったんだってさ。」

「天使の世界で味わえない体験かあ～。
それは、いったい 何だろうなあ～？」

「この本には、3つのキーワードが書いてあるよ。
『失敗』『分裂』『不足』 だってさ。」

「『失敗』『分裂』『不足』 かあ～。
たしかに、天使の世界では体験できないなあ。」

思ったことが目の前に現れるのが、宇宙の原則だからなあ。

思いどおりにならないことなんて、ありえないもんね。
つまり、『失敗』なんて、存在しないということだぞ。」

「そうなんだよね。
だから、『失敗』というものを体験できる世界を創ってみただ
ってさ。」

『失敗』がある、人間の世界では、自分が思ったことと違うこと
が現実に現れるように見えるので、思い通りにならない体験
を味わうことができるんだって。」

「へ～、それはすごいなあ。
でも、どうやって、思いどおりになっていないように見せるんだ？
宇宙の原則は、天使の世界も人間の世界も同じだから、思い
どおりにしかならないだろ。」

「え～とね。
2つのトリックがあるらしい。」

ひとつは、思っている通りにならないように見せるため、人間の
考えには意識できる領域と無意識の領域があるみたい。

無意識領域で思っていることは、自分が考えていることとは
思えないので、自分の考えじゃないことが起こっているように
見えるんだって。」

「お～、そうか！ それは盲点だなあ。
たしかに、無意識領域というのを創れば、自分で思っているこ
とも自分の考えだとは思えないでいられるなあ。すごい仕組み
だなあ。」

自分の考えが、現実を作っているのを気づけないわけだ。」

「そうだね。この仕組みを作った神様は天才だね。」

「本当だな。」

で、もう一つ、トリックがあるのか？」

「そうなんだ。もう一つはね。
『時間』という概念があることなんだ。」

「どういうことだ？」

「人間の世界には、『時間』ってものがあるらしいじゃない。
『時間』って概念を人間は持ったので、原因をつくって、結果が出るまでに、時間がかかるらしんだよ。」

「『タイムラグ』って ことか？」

「そう。思ったことが現実に現れるのに、時間がかかるから、どの考えが、現実を作ったのか分かりにくいようにできているんだ。」

そうすることで、自分の考えが現実を作り出しているとは思えないようになっている。

つまり、思い通りにならないと思えるんだってさ。」

「お～、すげえ～！

完璧に、『思い通りにならない世界』の完成だな。

思い通りにしかならない宇宙の原則は何も変わっていないのに、思い通りにならないように思えるわけだ。」

「そう、そういうこと。ホント、すごい仕組みだね。」

「じゃ、『分裂』はどうやって思い込ませるんだ？
だって、我々は元を正せば、ビッグバンを起こす前の起源は同じじゃん。それに、いまだにみんな心の底でつながっているし。」

「心のつながりをなくす方法があるんだよ。」

「そんな方法があるのか？ どうやるだ？」

「実際には心のつながりをなくすことはできないんだけど、あたかも繋がっていないように思い込ませるんだよ。」

「どうやって？」

「さっきも話した無意識領域が生きてくるんだって。」

「そうか、無意識領域かあ！
無意識領域は自分で認識していない部分だから、その先でみんなと繋がっていることを認識できなくするわけだな。
たしかに、そうなれば、みんなが繋がっていないように思えて、自分は分裂した存在だと思えるな。」

「さすが、兄ちゃん。すぐに分かっちゃうんだね。」

「へへ～ん。にいちゃんも、なかなかやるだろ～。」

「うん、スゴイね。」

それとね、分裂を決定づけるもう 1 つの決め手がある、って書いてあるよ。」

「もうひとつか～。何て書いてある？」

「肉体という器に宿ることで、他の人と目に見える隔たりがで
きるから、繋がっていない存在と思えるようになっているんだっ
てさ。」

「あ～、そうか。物質世界に次元を落とすことで、肉体に宿れ
るわけだけど、それによって、分裂して違う存在に見えるわけ
だな。」

「そうそう、そうみたい。兄ちゃん、さすがだね。理解できるの？」

「何となく。この間、先生がそんなこと話していたから、ちょ
っと繋がっちゃったよ。」

「すごいなあ。やっぱり、兄ちゃん、すごいや。」

「我々、天使の世界は、人間の世界より周波数が高いだろ。
人間の世界に行くには、周波数を低く抑えないと、肉体に入
ることはできないらしいんだ。」

水も氷(個体)になるには、振動数を下げないといけないだろ。

でも、周波数を下げること、視覚的に目に見える存在になれるから、別々の存在になった気になれるんだな。

逆に振動数が上がると、水は気体になってしまって、実体が見えなくなってしまう。そうすると、隔たりがなくなるから、みんな繋がっていることの方が自然に思えるもんな。」

「へ～、そういうことか。兄ちゃんの説明、分かりやすいよ。」

「年の功ってヤツだな。
よし、3番目の『不足』についても、本に何て書いてあるか、教えてくれよ。」

「え～とね。
『不足』は、分裂によって簡単に出来上がるんだって。」

天使の世界では、肉体という壁がないから、みんなつながっていることが分かりやすい。でも、人間の世界では、肉体を持つことで、別々の存在という意識になり、すべてを物質単位で認識するので、相手が持っているものを、自分が持っているとは思えない・・・ようになるんだって。」

「そうか、見事なカラクリだな。人間の世界は、上手くできているね。」

「ほんとだね。
あっ、それから、こんな風にも書いてある。」

宇宙の法則にのっとれば、必要なモノは思ったとおりに現れるワケじゃない。」

「そうだな。」

「でも、思い通りにならないと、無意識に心で宣言してしまっているから、必要なモノをわざと自分から遠ざけるような行動をしてしまっただって。」

「自分から遠ざけるのか。何か、コトみたいだな。そこにあるのに、反対を見て、『ない、ない。』言っているみたいな感じか。」

「そうみたい。何か、面白いね。」

「それにしても、その本に書いてあることは、すごいなあ。」

「また、読んで分かったこと、兄ちゃんに教えてあげるよ。」

「お～、ありがとう。いろいろ分かると面白いなあ。ぜひ、また話を聞かせてくれよな。」

おしまい

☆人生ドクター☆じーこ 澤田 Koji Sawada

じーこ澤田オフィシャルHP

<http://happykokoroji.com/>

じーこ澤田の最新情報

<https://jikosky.webnode.jp/>

2018年5月30日



Happy Kokoro-ji <http://happykokoroji.com/>